
我孫子市鳥の博物館報

第33号 令和4年度版

我孫子市鳥の博物館

目 次

1 博物館概要	2
1.1 博物館設置の目的と背景	2
1.2 運営方針	2
1.3 活動内容	2
1.4 博物館の歴史	2
1.5 博物館施設の概要	7
2 教育普及	10
2.1 展示	10
2.2 展示ガイド	11
2.3 観察会・講座・室内イベントほか	11
2.4 出版物	12
2.5 広報・取材協力	12
2.6 職場体験受入	13
2.7 出前授業・講師派遣・アドバイザー派遣など	13
2.8 鳥に関する質問	14
3 調査研究	14
4 資料の収集・保存	15
4.1 標本資料	15
4.2 図書資料	15
4.3 資料等貸出利用協力	15
4.4 燻蒸	15
5 総務ほか	16
5.1 組織	16
5.2 予算の執行状況	17
5.3 ミュージアムショップの運営	17
5.4 入館者数	19
6 条例・規則	20
7 博物館入館案内	23

1 博物館概要

1.1 博物館設置の目的と背景

我孫子市鳥の博物館は、人に身近な鳥をとおして自然環境への理解と関心を深め、野生生物の保護意識を高め、市のシンボルでもある手賀沼の浄化・再生を図るという目的で、平成2年5月22日に手賀沼のほとりに設置された。

手賀沼は周辺の都市化が進み、人口が急増した昭和40年代から水質の汚濁が始まり、昭和49年以降全国の湖沼の中で水質汚濁度ワースト1を記録していた。このような状況から、我孫子市は手賀沼の浄化を願い、昭和60年に「手賀沼のほとり、やすらぎのまち」をめざした基本構想を策定した。これに並行して、昭和59年、鳥類の研究・保護活動で知られる(財)山階鳥類研究所を誘致した。さらに同研究所の協力を得て、市民が人と鳥の共存について考え、鳥や自然環境に関する情報を得ることが出来る施設として「我孫子市鳥の博物館」を設置した。

手賀沼の水質ワースト1は27年間続いたが、さまざまな浄化対策が功を奏し、平成12年にピリオドを打った。我孫子市は、平成14年に、我孫子市第三次総合計画「手賀沼のほとり心輝くまち～人・鳥・文化のハーモニー～」をめざした基本構想・基本計画を策定し、環境施策目標として、手賀沼の水質浄化に加えて豊かな生態系の復活を掲げた。こうした施策を実現する上で、鳥の博物館は、環境学習を行う社会教育施設として重要な役割を果たしている。

1.2 運営方針

鳥の博物館は、市が主体となり、関係機関の協力を得て運営する。

この博物館が、多くの人に永く愛され、質の高いまちづくりに寄与するよう、適切な運営を図る。

市民が受け身に利用するだけでなく、積極的な利用を促すため、市民スタッフ制度の導入や友の会との協働イベントなど、市民が参加しやすい事業展開を図る。

来館者が効果的に見学できるように、ハンズオンを取り入れた体験学習コーナーを設ける。

また、博物館周辺の自然環境をフィールドミュージアムととらえ活用する。

以上の方針に沿って、楽しさ、利用しやすさ、質の高い情報提供を追及し運営する。

1.3 活動内容

鳥の博物館の活動は、次のとおり。

- ・鳥類を中心とした総合的な展示。
- ・鳥類を中心とする公開講座、自然観察会、実習等の開催、体験学習の充実。
- ・鳥類に関する資料の収集及び保存、調査・研究。
- ・鳥類と自然環境に関する情報の提供(図書や文献の収集・整理、閲覧、出版)。
- ・鳥類と自然環境の保護啓発活動。
- ・ミュージアム・ショップでの書籍・資料・記念品

等の販売。

1.4 博物館の歴史

(1)開館までの経緯

昭和60年6月に我孫子市鳥類展示館建設委員会が設置され、鳥の博物館の基本構想が策定された。

その5年後の平成2年5月22日、我孫子市鳥の博物館が開館した。

博物館ができるまでの5年間の主なできごとは次のとおりである。

-----開館までの主なできごと-----

- ・昭和60年6月7日：我孫子市鳥類展示館建設委員会(当初は展示館構想であったため、この名がついた)が設置され、基本構想・基本計画の検討がはじまる。
- ・同年8月26日：(仮称)我孫子市鳥の博物館基本構想が策定される。
- ・昭和61年3月31日：(仮称)我孫子市鳥の博物館基本計画が策定される。
- ・同年5月7日：これまで所管していた企画部企画課から、教育委員会社会教育課に事務が移管される。
- ・昭和62年4月21日：(仮称)我孫子市鳥の博物館建設委員会が設置され、本体及び展示工事の設計業者の選定に入る。
- ・同年7月30日：企画書競争選抜により、展示設計業者が株式会社日展に決定。
- ・同年8月8日：設計競争選抜により、本体設計業者が有限会社山下設計研究所に決定。
- ・昭和63年7月15日：整地工事(葵開発株式会社)開始。
- ・同年8月31日：整地工事完了。
- ・同年10月19日：本体建設工事(本体工事=東急・上村建設共同企業体、電気工事=モデン・玉田建設共同企業体)開始。
- ・平成元年6月20日：展示工事(株式会社日展)開始。
- ・同年7月24日：本体工事が完了する。
- ・同年8月1日：トキの剥製が、野瀬俊一氏(長野県佐久市在住)から寄託される。
- ・同年8月10日：外構工事(東急・上村建設共同企業体)開始。
- ・同年9月30日：外構工事が完了する。
- ・同年11月1日：我孫子市鳥の博物館協議会が設置される。
- ・同年11月30日：(仮称)我孫子市鳥の博物館建設委員会が解散される。
- ・同年12月15日：吉村卓三氏(動物作家)からエピオルニス(世界最大の卵)が寄贈される。
- ・平成2年3月20日：展示工事が完了する。
- ・同年5月22日：開館。

(2)開館後の主なできごと

鳥の博物館は、平成2年5月に開館して以来、企画展をはじめ、さまざまな活動を行ってきた。

開館から現在(令和年3月)までの主な事業および出来事は、つぎのとおりである。

-----開館後の主なできごと-----

- ・平成2年5月22日～7月22日：第1回企画展「巨鳥の歩んだ道」開催(入館者：37,764人)。
- ・平成2年6月3日：入館者1万人達成。
- ・平成2年7月24日～10月28日：第2回企画展「巨鳥の歩んだ道Ⅱ」開催(入館者：31,689人)。
- ・平成2年8月18日：入館者5万人達成。
- ・平成2年11月1日～12月2日：第3回企画展「オーデュボンの描いた野鳥たち-ワイルドライフ・アートへの招待-」開催(入館者：7,483人)。
- ・平成2年12月11日～平成3年1月27日：第4回企画展「新着標本展」開催(入館者：5,969人)。
- ・平成3年2月1日～4月7日：第5回企画展「ガン・カモの世界-水辺の住人、ガン・カモの暮らし-」開催(入館者：15,356人)。
- ・平成3年4月13日～6月23日：第6回企画展「鷹匠-道具でつづる鷹匠の世界-」開催(入館者：28,193人)。
- ・平成3年4月13日：入館者10万人達成。
- ・平成3年7月20日～10月13日：第7回企画展「沖縄の野鳥-みつめたい沖縄の自然-」開催(入館者：32,869人)。
- ・平成3年10月22日～11月24日：第8回企画展「日剥展-剥製師によるジオラマ作品展-」開催(入館者：8,875人)。
- ・平成3年4月1日：日本博物館協会、全国科学博物館協会、千葉県博物館協会へ加盟。
- ・平成3年7月24日：学芸員実習生受入開始。
- ・平成3年9月15日：博物館法にもとづく公立博物館登録。
- ・平成3年12月1日～平成4年5月31日：第9回企画展「オーデュボンの世界-史上最高の図鑑画-」開催(入館者：43,271人)。
- ・平成4年4月5日：入館者20万人達成。
- ・平成4年6月7日～10月25日：第10回企画展「繁殖展-手賀沼で子育てする鳥たち-」開催(入館者：42,154人)。
- ・平成4年夏期：学芸員実習生受入。
- ・平成4年11月1日～平成5年4月11日：第11回企画展「ヤマドリ展-いつまでも山野にはばたけ-」開催(入館者：30,606人)。
- ・平成5年4月17日～9月26日：第12回企画展「庭に来る鳥-その鳴き声と姿-」開催(入館者：42,724人)。
- ・平成5年5月1日：入館者30万人達成。
- ・平成5年夏期：学芸員実習生受入。
- ・平成5年10月2日～平成6年2月27日：第13回企画展「鳥の形とくらしⅠ-餌とくちばし-」開催

- (入館者：24,294人)。
- ・平成6年3月1日～5月5日：第14回企画展「切手の中の鳥たち-切手になった日本の鳥展-」開催(入館者：18,522人)。
- ・平成6年5月21日～10月23日：第15回企画展「都市鳥-都会派の鳥たち-」開催(入館者：32,605人)。
- ・平成6年7月30日：入館者40万人達成。
- ・平成6年夏期：学芸員実習生受入。
- ・平成6年10月29日～平成7年2月26日：第16回企画展「黒田長久・鳥絵の夢-はばたきのロマン-」(入館者：14,137人)。
- ・平成7年3月5日～7月16日：第17回企画展「鳥の形とくらしⅡ-あしのはたらき-」開催(入館者数：26,285人)。
- ・平成7年7月23日～12月27日：第18回企画展「沖縄の野鳥Ⅱ-ヤンバルの鳥たち-」(入館者数：23,231人)。
- ・平成7年夏期：学芸員実習生受入。
- ・平成8年1月14日～4月23日：第19回企画展「収蔵標本展'96-なぜ標本を集めるの-」開催(入館者数：13,710人)。
- ・平成8年4月28日～10月24日：第20回企画展「鳥の感覚器官Ⅰ-鳥の目のしくみとはたらき-」開催(入館者数：32,519人)。
- ・平成8年5月3日：入館者50万人達成。
- ・平成8年夏期：学芸員実習生受入。
- ・平成8年11月2日～平成9年5月25日：第21回企画展「ペンギンのルーツをさぐる」開催(入館者：25,914人)。
- ・平成9年5月31日～9月28日：第22回企画展「日本の鳥展」開催(入館者：19,435人)。
- ・平成9年夏期：学芸員実習生受入。
- ・平成9年10月4日～11月30日：第23回企画展「オーデュボン展」開催(入館者：7,116人)。
- ・平成9年12月6日～平成10年3月1日：第24回企画展「新着収蔵標本展'98」開催(入館者：4,850人)。
- ・平成10年3月7日～7月26日：第25回企画展「鳥の形とくらしⅢ-つばさと飛行-」開催(入館者：23,840人)。
- ・平成10年5月13日：入館者60万人達成。
- ・平成10年夏期：学芸員実習生受入。
- ・平成10年9月5日～11月29日：第26回企画展「身近な鳥Ⅰ-ツバメ・ムクドリ・ハシブトガラス-」開催(入館者：10,067人)。
- ・平成10年12月5日～平成11年3月28日：第27回企画展「オーデュボン展-150年前に描かれた北アメリカの鳥類-」開催(入館者：9,865人)。
- ・平成11年4月10日～7月11日：第28回企画展「手賀沼の鳥-数から見た鳥のくらし-」開催(入館者：13,417人)。
- ・平成11年7月17日～10月31日：第29回企画展「新着収蔵標本展'99-博物館にやってきた鳥たち-」開催(入館者：13,426人)。
- ・平成11年11月27日～平成12年4月23日：第30

- 回企画展「身近な鳥展Ⅱ-コサギ、キジバト、シジュウカラ」開催（入館者：5,778人）。
- 平成12年2月26日～4月23日：第31回企画展「身近な鳥展Ⅲ-オオバン、ユリカモメ、オナガ」開催（入館者：5,670人）。
 - 平成12年4月11日：長崎大学よりトキ寄贈。
 - 平成12年4月29日～8月27日：第32回企画展「里山の鳥-サシバの見た里山の自然-」開催（入館者：16,969人）。
 - 平成12年9月9日～11月5日：第33回企画展「収蔵庫の中のレッド・データ・バード-絶滅のおそれのある日本の鳥たち-」開催（入館者数：5,938人）。
 - 平成12年10月18日：入館者70万人達成。
 - 平成12年11月18日～平成13年4月8日：企画展示室に「日本の鳥コーナー」展示（入館者数：11,363人）。
 - 平成12年12月1日～平成13年2月28日：博物館屋根改修および防水修繕工事実施（上村建設工業株式会社、工事費8,614,830円）。
 - 平成13年4月21日～9月2日：第34回企画展「鳥の食卓-メニューとマナー-」開催（入館者数：20,098人）。
 - 平成13年4月29日：鳥の博物館友の会発足
 - 平成13年5月：Enjoy手賀沼開始
 - 平成13年7月15日：体験学習室オープン。
 - 平成13年9月22日～平成14年2月10日：企画展示室に「日本の鳥コーナー」展示（入館者数：15,620人）。
 - 平成13年11月：ジャパンバードフェスティバル開始
 - 平成14年2月23日～4月14日：第35回企画展「オーデュボンの描いた鳥たち」（入館人数：5,212人）
 - 平成14年6月15日～10月27日：第36回企画展「岡発戸の谷津田の鳥と自然Ⅰ」（入館人数：18,184人）。
 - 平成14年4月：館内ガイドツアーの開始
 - 平成14年4月：階段ギャラリーの設置
 - 平成14年11月9日～平成15年3月30日：企画展示室に「日本の鳥コーナーⅠ」展示（入館人数：12,712人）。
 - 平成15年4月：フロアスタッフ（嘱託職員）配置
 - 平成15年4月：フロアスタッフイベント開始
 - 平成15年4月：あびこ自然観察隊の開始
 - 平成15年4月12日～6月22日：企画展示室に「日本の鳥コーナーⅡ」展示（入館人数：9,364人）。
 - 平成15年4月24日：入館者80万人達成。
 - 平成15年6月28日～9月28日：第37回企画展「羽毛のふしぎ」開催（入館者数：11,861人）。
 - 平成15年8月30日：ミュージアムコンサート（チェンバロ）開始
 - 平成15年10月4日～平成16年2月1日：第38回企画展「鳥と木の実」開催（入館人数：11,854人）。
 - 平成16年2月21日～6月27日：企画展示室に「日本の鳥コーナー」展示（入館者数：15,004人）。
 - 平成16年4月：てがたん（手賀沼定例探鳥会）開始
 - 平成16年7月10日～10月3日：第39回企画展「骨が語る鳥のくらし」開催（入館者数：10,544人）。
 - 平成16年10月9日～11月7日：第40回企画展「第1回友の会展」開催（入館者数：5,656人）。
 - 平成16年11月20日～平成17年4月24日：企画展示室でテーマ展「日本の鳥」開催（入館者数：14,971人）。
 - 平成17年4月：鳥の博物館市民スタッフ制度導入
 - 平成17年4月：多目的ホールの開設。多目的ホールに体験学習室を移設し、元体験学習室は「友の会・市民スタッフルーム」として設置。
 - 平成17年4月29日～9月18日：第41回企画展「あびこにコウノトリがやってきた」開催（入館者数：18,641人）。
 - 平成17年8月：夏休みフロアスタッフイベント開始
 - 平成17年8月20日：入館者90万人達成。
 - 平成17年10月1日～11月20日：第42回企画展「第2回友の会展」開催（入館者数：7,800人）。
 - 平成17年12月3日～平成18年1月29日：企画展示室で「日本の鳥コーナーⅠ-北の鳥たち-」展示（入館者数：3,035人）。
 - 平成18年2月4日～4月23日：企画展示室で「日本の鳥コーナーⅡ-多様な自然環境と日本の鳥たち-」展示（入館者数：7,733人）。
 - 平成18年4月29日～9月24日：第43回企画展「あびこの公園の鳥たち」開催（入館者数：17,037人）。
 - 平成18年夏期：学芸員実習生受入。
 - 平成18年10月1日～11月19日：第44回企画展「第3回友の会展」開催（入館者数：8,492人）。
 - 平成18年12月2日～19年1月21日：第45回企画展「日本の鳥-収蔵庫の標本一堂に公開-」開催（入館者数：2,775人）。
 - 平成19年2月1日～同年5月13日：第46回企画展「鶏民芸品展-秋篠宮コレクション-」開催（入館者数：12,996人）。
 - 平成19年6月9日～9月23日：第47回企画展「てがたん-手賀沼フィールドミュージアムへの誘い-」開催（入館者数：11,299人）。
 - 平成19年10月6日～11月25日：第48回企画展「第4回友の会展」開催（入館者数：6,770人）。
 - 平成19年12月8日～平成20年3月30日：第49回企画展「日本の鳥コーナー-図鑑とちがう標本になった鳥たち-」開催（入館者数：7,333人）。
 - 平成20年4月8日：フクロウ巣箱に3個の卵を確認。
 - 平成20年4月12日～9月15日：第50回企画展「鳥のくらし」
 - 平成20年5月4日：入館者100万人達成。柏市在住。本館友の会会員、上村朋子さん。
 - 平成20年4月12日～9月15日：第50回企画展「鳥のくらし-ジオラマで見る鳥の生活-」開催（入館

- 者数：18,294人)。
- ・平成20年5月15日：フクロウ巣箱に3羽の雛を確認。
 - ・平成20年10月4日～11月24日：第51回企画展「第5回友の会展」開催(入館者数：6,698人)。
 - ・平成20年12月6日～平成21年3月20日：第52回企画展「日本の鳥展-骨格編-」開催(入館者数：8,750人)。
 - ・平成21年1月1日：元日特別開館試行
 - ・平成21年4月11日～9月27日：第53回企画展「てがたん展パート2-かかわりあって暮らす身近な生き物-」開催(入館者数：19,569人)。
 - ・平成21年10月1日～11月27日：第54回企画展「第6回友の会展」開催(入館者数：8,782人)。
 - ・平成21年12月5日～平成22年3月28日：第55回企画展「日本の鳥-収蔵庫の中の身近な鳥たち-」開催(入館者数：8,315人)。
 - ・平成22年1月1日：元日特別開館
 - ・平成22年5月1日～9月20日：第56回企画展「鳥たちの旅-渡り鳥のくらしを追う-」開催(入館者数：16,790人)。
 - ・平成22年10月2日～11月28日：第57回企画展「第7回友の会展」開催(入館者数：8,410人)。
 - ・平成22年12月4日～平成23年4月24日：第58回企画展「楚人冠と鳥」開催(入館者数：6,688人)。
 - ・平成23年1月1日：元日特別開館
 - ・平成23年3月15日～4月15日：震災のため臨時休館。
 - ・平成23年4月29日～7月10日：第59回企画展「てがたん展パート3-身近な自然、季節の出会い-」開催(入館者数：9,147人)。
 - ・平成23年7月16日～10月23日：第60回企画展「ジオラマで見る鳥のくらし-食事編-」開催(入館者数：12,021人)。
 - ・平成23年10月29日～11月27日：第61回「バードカービング優秀作品展」開催(入館者数：1,877人)。
 - ・平成23年12月1日～平成24年1月27日：第62回企画展「第8回友の会展」開催(入館者数：2,797人)。
 - ・平成24年2月11日～11月25日：第63回企画展「日本の鳥-鳥博コレクション展-」開催(入館者数：27,559人)。
 - ・平成24年12月1日～平成25年1月27日：第64回企画展「第9回友の会展」開催(入館者数：2,383人)。
 - ・平成25年2月9日～6月30日：第65回企画展「身近な鳥-我孫子の鳥を調べてみたら-」開催(入館者数：12,524人)。
 - ・平成25年7月13日～12月1日：第66回企画展「鳥の骨展-空とぶ骨組み-」開催(入館者数：14,005人)。
 - ・平成25年12月7日～1月13日：第67回企画展「第10回友の会展-手賀沼周辺の探鳥地&ワクワク友の会ライブ-」開催(入館者数：1,757人)。
 - ・平成26年1月25日～6月29日：第68回企画展「日本の鳥-識別編-」開催(入館者数：13,498人)。
 - ・平成26年7月12日～11月30日：第69回企画展「山階コレクション展-日本の鳥学を築いた研究所の貴重標本-」開催(入館者数：16,558人)。
 - ・平成26年8月22日：国際鳥類学会議なか日ツアーにより鳥の博物館見学
 - ・平成26年12月13日～平成27年1月25日：第70回企画展「第11回友の会展-親子で楽しむ手賀沼周辺探鳥地-」開催(入館者数：2,248人)。
 - ・平成27年2月7日～6月28日：第71回企画展「鳥の鳴き声展」開催(入館者数：14,615人)。
 - ・平成27年5月24日：開館25周年記念講演会「鳥の博物館のこれから」開催(参加者数：60人)。
 - ・平成27年7月11～9月6日：第72回企画展「アホウドリ展-復活への挑戦-」開催(入館者数：6,016人)。
 - ・平成27年9月12日～12月6日：第73回企画展「飛んでる鳥展-飛翔型標本コレクション-」開催(入館者数：11,298人)。
 - ・平成27年12月：タッチ式デジタルサイネージ設置
 - ・平成27年12月12日～平成28年1月24日：第74回企画展「第12回友の会展-手賀沼でバードウォッチング-」開催(入館者数：2,237人)。
 - ・平成28年2月6日～6月26日：第75回企画展「フクロウさんちの子育て日記」開催(入館者数：14,412人)。
 - ・平成28年7月9日～11月6日：第76回企画展「我孫子の鳥図鑑-市内で見られる鳥全種の標本-」開催(入館者数：16,816人)。
 - ・平成28年11月7日～平成29年1月31日：鳥の博物館空調設備更新工事につき閉館
 - ・平成29年2月11日～6月25日：第77回企画展「鳥の子育て-ジオラマで見る鳥の繁殖-」開催(入館者数：14,910人)。
 - ・平成29年7月15日～11月26日：第78回企画展「鳥・酉・鶏・とり」開催(入館者数：17,912人)。
 - ・平成29年12月9日～平成30年1月14日：第79回企画展「第13回友の会展」開催(入館者数：2,003人)。
 - ・平成30年1月27日～6月24日：第80回企画展「日本の海鳥-カンムリウミスズメと行く海の旅-」開催(入館者数：13,455人)。
 - ・平成30年7月14日～11月25日：第81回企画展「我孫子の都市鳥-都市の発展と鳥たちの移り変わり-」開催(入館者数：15,426人)。
 - ・平成30年12月8日～平成31年1月14日：第82回企画展「第14回友の会展-我孫子で子育てする鳥たち-」開催(入館者数：1,873人)。
 - ・平成31年2月2日～令和元年6月16日：第83回企画展「てがたん展-あびこで楽しむ自然観察-」開催(入館者：11,378人)。
 - ・令和元年7月13日～11月24日：第84回企画展

- 「世界からみた日本の鳥」開催(入館者:15,212人)
- ・令和元年12月7日～令和2年1月13日:第85回企画展「第15回友の会展-万葉集の旅、鶏の鳴く東の国から太宰府まで-」開催(入館者:2,425人)
 - ・令和2年2月1日～8月30日:第86回企画展「バンディング展」開催(入館者:8,183人)
 - ・令和2年3月24日(火)～6月7日(日):新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため臨時休館。
 - ・令和2年6月9日(火)より、来館者への入館確認票記入依頼、健康確認の呼びかけ、手指消毒液の設置、トイレの手洗場の自動水栓化、ソーシャルディスタンス確保の呼びかけ、館内最大滞留人数の制限(40人)等新型コロナウイルス感染症対策を施し再開館。2階多目的ホールおよび友の会・市民スタッフルームの飲食場所・友の会活動としての使用および体験型展示の利用は中止。てがたん、あびこ自然観察隊を中止。館内イベントも一部を除き中止。講座はオンラインのリモートで実施。
 - ・令和2年10月10日～令和3年1月31日:鳥の博物館開館30周年特別展示「日本の鳥」開催(入館者:5,979人)
 - ・令和3年2月13日～3月14日:第87回企画展「第16回友の会展-日本の四季を彩る鳥たち-」(入館者:1,865人)
 - ・令和3年3月27日～令和3年6月27日:「日本の鳥-収蔵標本公開-」開催(入館者数:6,839人)
 - ・令和3年3月31日:日本博物館協会、千葉県博物館協会を脱会
 - ・令和3年7月17日～11月28日:第88回企画展「鳥のチャンピオン」(入館者:11,369人)
 - ・令和3年12月11日～令和4年1月16日:第89回企画展「第17回友の会展 大空に展示したい!クマタカ凧 ～鳥凧ができるまで～」(入館者:1,722人)
 - ・令和4年2月5日～令和4年6月26日:「日本の鳥-収蔵標本公開-」開催(入館者数:12,598人)
 - ・令和4年7月16日～令和4年11月27日:第90回企画展「手賀沼の鳥-環境と水鳥 いま・むかし-」(入館者:11,863人)
 - ・令和4年12月10日～令和5年1月29日:第91回企画展「友の会展-マンホール上の鳥たち-」(入館者:2280人)
 - ・令和5年2月18日～令和5年6月25日:「日本の鳥コーナー-収蔵標本公開-」開催(入館者:11,891人)
 - ・令和5年3月1日:入館料およびミュージアムショップの支払いに電子決済システムを導入

1.5 博物館施設の概要

(1) 建設・設備

【設計】

- ・ 建築設計：(有) 山下和正建築研究所
- ・ 建築工事監理：(有) 山下和正建築研究所
- ・ 展示設計：(株) 日展
- ・ 展示工事監理：(株) 日展

【施工】

- ・ 建築：東急・上村建設共同企業体
- ・ 外構：東急・上村建設共同企業体
- ・ 電気：モデン・玉田建設共同企業体
- ・ 昇降機：(株) 日立製作所
- ・ 浄化槽：東急・上村建設共同企業体
- ・ 視聴覚機器：東信電気(株)、(株) ナノテクニカル、光電子(株)
- ・ 展示：(株) 日展

【工事費】

- ・ 建築基本設計・実施設計：12,200,000 円
- ・ 建築工事(含む本体、電気、外構、監理)：490,684,500 円
- ・ 展示基本構想・基本計画：12,450,000 円
- ・ 展示工事(含む視聴覚システム)：201,001,900 円
- (合計) 716,336,400 円

【工期】

- ・ 着工：昭和63年10月(建物竣工 平成元年7月)
- ・ 完成：平成2年3月(開館 平成2年5月22日)

【規模】

- ・ 敷地面積：1,701.19 m²
 - ・ 建築面積：607.29 m²
 - ・ 延床面積：1,563.80 m²
 - 一階：522.65 m²
 - 二階：558.00 m²
 - 三階：448.08 m²
 - 塔屋階：26.07 m²
 - 浄化槽機械室 9.00 m²
 - ・ 展示面積：585.53 m²
 - ・ 構造規模：鉄筋コンクリート造地上3階建
 - ・ 建築基礎：直接基礎
 - ・ 建物高：地上 18.8m
- (注) 建築面積、延床面積は建物建築確認申請に基づく数値

【空調設備】

- ・ 空調システム：ガス焚冷温水発生機によるセントラル空調システム(事務室は室外機設置によるエアコン)
- ・ 空調系統：3階展示室：空調機によるダクト方式
- ・ その他：ファンコイルによる個別方式
- ・ 換気システム：小型全熱交換器、または天井扇による局所換気
- ・ 除湿器：収蔵庫及び展示室に設置【衛生設備】

- ・ 給水方式：1・2：水道直結方式(吸引口径 50φ)、3：小型受水槽及びポンプ圧導方式
- ・ 排水方式：汚水は下水道直結(平成21年11月に浄化槽から公共下水道へ接続工事)。雨水は別系統とし、床下ピット(調整槽)に貯留後排水。
- ・ 給湯方式：ガス瞬間湯沸器による個別方式
- ・ ガス：都市ガス

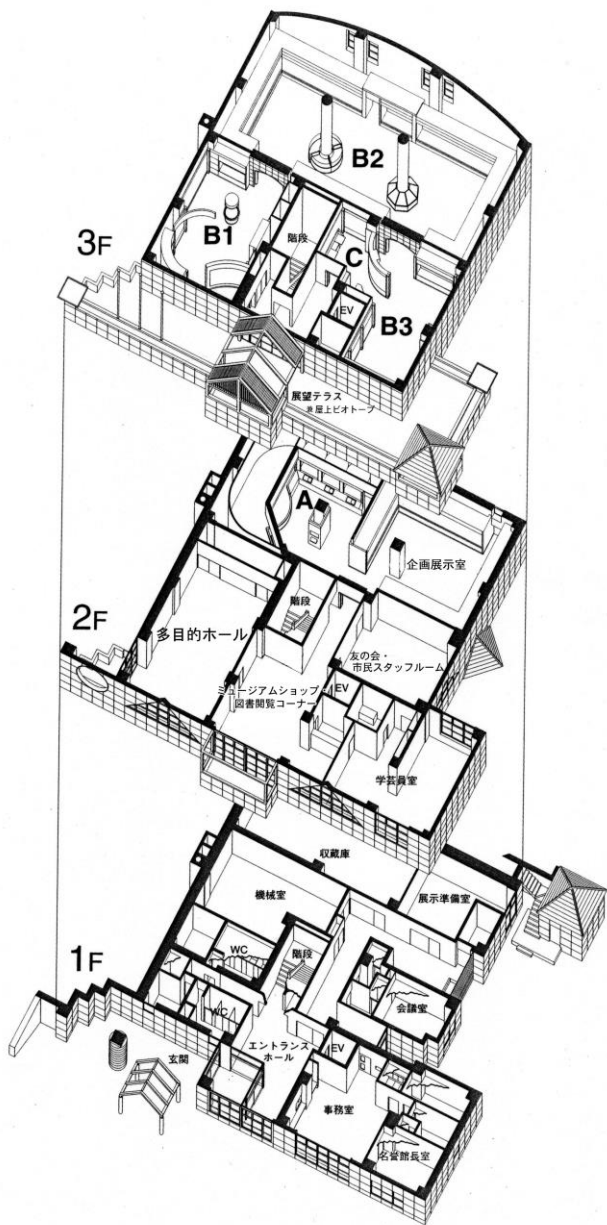
【消火設備】

- ・ 消火器
- ・ ハロゲン消火(収蔵庫)

【電気設備】

- ・ 受変電設備：受電電圧 3相3線式 6,600V
変圧器 3相 75KVA1台、単相 25KVA1台
コンデンサー 3相 25KVA 2台
屋外キュービクル型
- ・ 監視設備：
受変電設備故障監視
動力設備遠方発停故障監視
照明(コンセント)設備
共同リモコン制御
- ・ 動力設備：
一般動力 3相 200V
- ・ 照明設備：
LEDダウンライト(2階・3階展示室、2階多目的ホール、2階友の会ルーム、1階エントランスホール)
LEDスポットライト(2階・3階展示室)
蛍光灯(事務室、展示ケース内照明、その他)
スポットライト(1階展示準備室)
- ・ 誘導灯非常灯：
バッテリー内蔵型
- ・ 拡声設備：
120W10局壁掛型
全館非常放送 120W 10局用
多目的ホール放送、エレベーター専用放送
- ・ 自動火災報知設備：
P型1級20回線
- ・ 防犯設備
開口部感知装置：無人化監視装置
- ・ 電話設備：
IP電話 11台
- ・ テレビ共振設備：
視聴覚用 VHF・UHF・BS
- ・ 昇降機設備：
乗用ロープ式、定員 11名(積載荷重 750kg)、速度 60m/分

(2) 館内見取り図



(3) 用途別面積

・1階

室名	室数	延べ床面積 (㎡)
事務室	1	51.51
給湯室	1	4.19
名誉館長室	1	20.09
更衣室	1	8.86
休憩救護室	1	13.53
会議室	1	19.85
燻蒸室	1	7.18
展示準備室	1	35.04
収蔵庫	1	82.24
機械室	1	60.22
事務倉庫	1	11.39
清掃員室	1	9.32
トイレ	1	33.37
職員用トイレ	1	12.9
エントランスホール	1	38.24
風除室	1	12.6
荷解室	1	25.29
階段室	1	19.95
エレベーター室	1	5.28
廊下	2	50.85
その他P S等	-	0.75
合計		522.65

- (注) 2階 A : 展示室「手賀沼の自然と鳥」
 3階 B1~3 : 展示室「鳥の世界」
 3階 C : 展示室「人と鳥の共存」

・2階

室名	室数	延べ床面積 (㎡)
学芸員室	1	69.91
暗室	1	8.04
友の会・市民スタッフ ルーム	1	51.82
多目的ホール	1	89.77
倉庫	1	10.97
ミュージアムショッ プ・図書閲覧コーナー	1	43.83
常設展示室	1	107.33
企画展示室	1	107.71
階段室	1	19.65
エレベーター室	1	5.28
廊下室	1	40.91
その他P S等	-	2.78
合計		558

・3階

室名	室数	延べ床面積 (㎡)
常設展示室	1	370.49
階段室	1	31.26
エレベーター室	1	5.28
エレベーターホール	1	30.1
その他P S等	-	10.95
合計		448.08

・搭屋階

室名	室数	延べ床面積(㎡)
エレベーター機械室	1	10.53
階段室	1	10.31
その他P S等	-	5.23
合計		26.07

・別棟

室名	室数	延べ床面積(㎡)
旧浄化槽機械室	1	9.00

(注) 各面積は、建築設計図面からの面測値

■ は、来館者専用エリア

2 教育普及

2.1 展示

(1) 常設展示

常設展示は、①手賀沼の自然と鳥たち、②鳥の世界、③人と鳥の共存、以上三つのテーマで構成される。

テーマごとの展示内容は次のとおり。

①手賀沼の自然と鳥たち

我孫子市の自然を代表する手賀沼を取り上げ、関東平野の中央に位置するという地理的な特徴、干拓による地形的な変遷、生物相の変遷など、鳥が生活する舞台としての手賀沼の特徴を紹介している。

また、いま手賀沼ではどんな鳥がどの様に生活しているのか、四季折々の典型的な情景をジオラマ(生態展示)で具体的に表現した。

②鳥の世界

「鳥」とはどんな動物なのか理解を深めるために、生物学的視点から鳥の特徴を取り上げた。

鳥の起源と進化、分類について、世界の鳥の分類展示、飛翔のしくみの各項目で構成した。

始祖鳥の化石の復元模型や約 300 点の世界の鳥の剥製、骨格標本、飛翔標本などを展示。

③人と鳥の共存

絶滅の危ぶまれる「トキ」の剥製展示を導入として、人と鳥とのかかわりあいの歴史についてふれた。

最後の一羽にならないために、人のしてきたこと、帰らぬ鳥たち、共に生きるために、以上の各項目で構成。

(その他)

・タッチ式デジタルサイネージ(2階)

平成27年度より手賀沼コーナーに設置。

手賀沼の四季(映像)、手賀沼の鳥図鑑(環境別50種)、増えた鳥・減った鳥(手賀沼1988~2012)、手賀沼が今の姿になるまで(地史)、手賀沼と周辺の自然環境(エコトーン)、手賀沼水域の環境の変化(干拓、汚濁、利用)、手賀沼の環境トピックスの各項目を紹介。

・Q&Aコーナー(3階)

展示室の最後に、博物館の展示で学んだことの復習ができるコーナーを設置している。

鳥あてクイズ、鳥のものしりクイズ、我孫子の自然クイズ、以上三つのクイズが楽しめる。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため令和2年から体験型展示と多目的ホールは接触感染のリスクを避けて使用を中止していたが、令和4年度から段階的に解除した。

(2) 企画展示等

(企画展示室にて開催)

◆第90回企画展「手賀沼の鳥ー環境と水鳥 いま・むかしー」

(期間) 令和4年7月16日(土)~11月27日(日)

(内容) 我孫子野鳥を守る会は1997年から2020年までの44年間にわたり、ほぼ同様の手法で毎月1回の水鳥カウントを継続してきた。このカウント調査の結果をもとに手賀沼の環境の変化に伴う鳥類の移り変わりについて紹介した。

◆第91回企画展「第18回友の会展ーマンホール上の鳥たちー」

(期間) 令和4年12月10日(土)~令和5年1月29日(日)

(内容) 鳥の博物館友の会で鳥の剥製をスケッチするグループである鳥絵同好会が、東葛地域およびその近隣で見られる市の鳥をモチーフにしたマンホールを紹介。合わせてデジカメ同好会・鳥凧同好会・鳥絵同好会・万葉集同好会・みて歩こう会・しちじゅうにこうのかいの年間の活動成果を紹介した。

◆日本の鳥コーナーー収蔵標本公開ー

(期間) 令和5年2月5日(土)~令和5年6月25日(日)

(内容) 鳥の博物館では開館以来、日本産鳥類全種の剥製標本の収集を進めており、現在までにその6割ほどにあたる389種の標本を収蔵している。これらの標本をできるだけ多く展示し、地域や環境、季節によって異なる日本の鳥の多様性を紹介した。

(3) その他展示

◆鳥の博物館の紹介展示

(期間) 令和4年10月12日(水)~11月7日(日)

(場所) 我孫子市民図書館アピスタ本館展示スペース

(内容) 博物館のPRと我孫子市民図書館内にある鳥の本のコーナーを紹介した出張展示。

2.2 展示ガイド

◆ ガイドツアー

原則として、毎週土・日曜日及び祝日の午前と午後、約30分ずつ展示案内を行っていたが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、すべて中止した。

◆ 団体解説

来館者の希望を受けて館内ガイドを行っているが、年度当初は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、原則としては実施していなかった。その後、11月より再開した。

◆ 市民スタッフによる展示交流等

市民スタッフによる展示交流活動として館内の案内を行っているが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため活動を中止した。令和5年度からの活動再開へ向け、3月に研修会を実施した。

2.3 観察会・講座・室内イベントほか

(1) 観察会

◆ てがたん (手賀沼の自然観察会)

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催時間を1時間に短縮して実施した。6月までは参加定員を10名までとし、7月からは参加定員を20名までに変更した。

(日時) 毎月第2土曜日 10時から11時まで
(場所) 博物館前広場、親水広場水の館、手賀沼遊歩道、水生植物園
(参加者総人数) 139人

- ・4月 キジも鳴かずば見られまい 10人
- ・5月 たよって生きるつる植物 雨天中止
- ・6月 元気に育て!鳥のヒナ 11人
- ・7月 てがたん樹木検定・夏編 8人
- ・8月 外来種ってどんな生きもの? 7人
- ・9月 手賀沼のサギのななま 13人
- ・10月 ナメクジってなにもの? 8人
- ・11月 歌で楽しむ自然観察 11人
- ・12月 ホオジロたちの暮らしかた 20人
- ・1月 冬鳥を楽しむ 19人
- ・2月 冬のヨシ原の生き物 20人
- ・3月 ものまねチャンピオン・モズ 12人

◆ バードウィーク手賀沼探鳥会

(日時) 令和4年5月8日(日) 9:00~12:00
(場所) 我孫子市高野山地区の手賀沼遊歩道
(共催) 我孫子野鳥を守る会
(参加者総人数) 82人

◆ あびこ自然観察隊

手賀沼周辺の地域を特徴づける環境をフィールドとして実施する自然観察会。今年度は合計5回企画

し、新型コロナウイルス感染症対策として、参加定員を少人数にして実施した。各会のテーマと日時・場所は次のとおり。

- ・第1回「手賀沼の魚をみよう」
(日時) 令和4年7月30日(土) 10:30~12:00
(場所) 鳥の博物館、手賀沼
(参加者) 17人
- ・第2回「ツバメのねぐら観察会」
(日時) 令和4年8月14日(日) 17:00~19:30
(場所) 手賀沼上沼南岸
(参加者) 15人
- ・第3回「夜の動物観察会」
(日時) 令和4年12月3日(土) 16:00~19:00
(場所) 利根川ゆうゆう公園
(参加者) 21人
- ・第4回「観察しよう!手賀沼の冬鳥」
(日時) 令和5年2月19日(日) 9:00~12:00
(場所) 手賀の丘の森および手賀沼湖畔
(共催) 手賀の丘少年自然の家
(参加者) 21人
- ・第5回「春の谷津田観察会」
(日時) 令和5年3月19日(日) 9:00~12:00
(場所) 岡発戸・都部の谷津田
(参加者) 21人

(2) 講座

◆ 鳥のサイエンストーク

「テーマトーク」は令和4年度から「鳥のサイエンストーク」に名称を変更した。山階鳥類研究所研究員および鳥の博物館学芸員による鳥類に関する研究紹介と質疑応答。毎月第3土曜日の13時30分から14時15分までオンラインのセミナー形式で実施。

- ・第1回4月16日、「目に見えるものだけを信じるな—奄美大島の絶滅危惧種オオトラツグミの巣の特徴—」、講師:水田拓さん(山階鳥類研究所自然誌・保全研究室ディレクター)、最大同時視聴者:94人
- ・第2回5月21日、「潮目が変わる?ガン類追跡の今」、講師:澤祐介さん(山階鳥類研究所研究員)、最大同時視聴者:101人
- ・第3回6月18日、「日本に渡ってくるハマシギはどこから来るのか?—DNA分析から繁殖集団を推定する—」講師:齋藤武馬さん(山階鳥類研究所研究員)、最大同時視聴者:87人
- ・第4回7月16日「明治期の標本が語る—南鳥島の話」、講師:小林さやかさん(山階鳥類研究所研究員)、最大同時視聴者:62人
- ・第5回8月20日「鳥にまつわる法律のハナシ」、講師:千田万里子さん(山階鳥類研究所専門員)、最大同時視聴者:106人
- ・第6回10月15日「手賀沼の鳥を調べる—個体数モニタリングと鳥類相—」、講師:小田谷嘉弥(我孫子市鳥の博物館学芸員)、最大同時視聴者:46人

- ・第7回 12月24日「鳥の学術標本作り・中級編—中型の海鳥を作ろう」、講師:岩見恭子さん(山階鳥類研究所研究員)、最大同時視聴者:102人
- ・第8回 1月21日「アホウドリをはじめとした鳥島で繁殖する海鳥の近況」、講師:富田直樹さん(山階鳥類研究所研究員)、最大同時視聴者:79人
- ・第9回 2月18日「ヤンバルクイナを真の遺産とするために」、講師:尾崎清明さん(山階鳥類研究所副所長)、最大同時視聴者:58人
- ・第10回 3月18日「眉の薄いエナガはどこにいる?」、講師:望月みずき(我孫子市鳥の博物館学芸員)、最大同時視聴者:85人

◆鳥学講座

毎年ジャパンバードフェスティバルのイベントとしてアピスタ(我孫子市生涯学習センター)1階ホールで実施していたが、バードフェスティバルの会場が手賀沼公園に移ったことに伴い、我孫子駅南口にあるアピイホールにて実施した。

・「江戸の鳥の美食学—環境破壊や乱獲がもたらした野鳥食文化の衰退」

(日時) 令和4年11月5日(土) 13:30~15:00

(講師) 菅豊さん(東京大学東洋文化研究所教授)

(内容)

日本と中国をフィールドに民俗学の視点から地域社会における自然資源や文化資源の利用や管理の在り方について研究されている菅豊さんに、2021年に出版された「鷹將軍と鶴の味噌汁」の内容から、江戸における鳥食文化を中心にお話しいただいた。

(参加者数) 118人

◆ゲストトーク

今年度のJBFは手賀沼公園と我孫子駅南口が会場となり、親水広場には出展する団体がいないため中止した。

◆鳥博セミナー

今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、オンライン形式で実施した。

・「カモとハクチョウの冬の暮らし」

(日時) 令和4年10月1日(土) 14:00~15:30

(講師) 嶋田哲郎さん(宮城県伊豆沼・内沼環境保護財団)

(内容) カモ科の鳥は体の大きさによって、小さいカモ類、中型のガン類、大型のハクチョウ類の異なる3つのグループにおおまかに分けることができるが、このうちカモ類とハクチョウ類の渡り、冬の暮らし、人とのかかわりについてお話しいただいた。

(最大同時視聴者数) 88人

(3)室内イベント

◆バードウィーク館内企画

5月5日「鳥風教室」および5月9日「鳥のゴムバンドをつくろう」を鳥の博物館友の会との共催で企画していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止した。

め中止した。

◆夏の遊びと研究大集合 2022

小中学生を対象に、鳥や身近な自然について紹介するイベントを夏休み期間中に実施した。

(期間) 令和4年8月6日(土)から8月28日(日)

までに全8回実施

(時間) 13:30~15:30

(場所) 2階友の会・市民スタッフルーム

(参加者) 延べ 267人

(各回のテーマと参加者数)

8月6日(土) ふわふわ鳥グライダー 25人

8月7日(日) ほねほねサイコロをつくろう 36人

8月13日(土) メダカでアクアリウム 36人

8月14日(日) ふわふわ鳥グライダー 22人

8月20日(土) ゴーストミミズク 34人

8月21日(日) 飛べ!鳥の紙ひこうき 47人

8月27日(土) ハンターになろう!

ペットボトル空気砲づくり 31人

8月28日(日) 飛べ!鳥の紙ひこうき 36人

◆JBF館内企画

11月5日、6日にウエルカムイベントとして、工作教室とクイズおよびてがたん in JBFを予定していたが、JBFの会場が親水広場から手賀沼公園へ移転したことに伴い、実施しなかった。

◆正月イベント

鳥の博物館友の会との共催で企画していた「鳥風教室」は、新型コロナウイルス感染症対策のため中止した。

2.4 出版物

◆我孫子市鳥の博物館報 第32号(令和3年度版)

A4判 23ページ、鳥博ホームページにてPDF配信。

◆鳥の博物館ニュース「あびこ鳥だより」

A4判 4ページ、鳥博ホームページにてPDF配信および館内にて配布。

・2022年夏・秋号(通巻62号) 令和4年7月14日

・2022年冬・春号(通巻63号) 令和5年1月23日

◆鳥博日記

鳥博ホームページにて随時配信。

◆とりはく自然通信

鳥博ホームページにて随時配信。

2.5 広報・取材協力

【書籍・新聞・雑誌・パンフレット・ホームページ】

・「きみも恐竜博士だ!真鍋先生の恐竜教室」:岩波書店 2022年12月刊行にて、「第66回企画展 鳥の骨展—空飛ぶ鳥の骨組み」より人間と鳥の各部位の骨を比較した画像と、フンボルトペンギンの骨格標本の写真を掲載

- ・「BIRDER」2022年8月号「ペンギンはいつペンギンになった?」: 文一総合出版 フンボルトペンギン骨格標本、フンボルトペンギン剥製、ハイイロミズナギドリ骨格標本、およびプロトプテルム骨格模型について、写真の撮影および掲載を許可
- ・「とことんエナガ、シマエナガ」2022年11月刊行: 文一総合出版 エナガ、シジュウカラ、レンジャク類の剥製標本の写真を撮影し掲載。
- ・「歩く地図 東京近郊散歩 2023-2024」2022年9月刊行: あるつく社 鳥の博物館の案内を掲載
- ・文部科学省検定教科書 小学校理科「たのしい理科」第3~6学年 web コンテンツ: 大日本図書 館の外観写真を提供し、URLの掲載を許可。
- ・「旅コンテンツ完全セレクション 心躍る 博物館」2023年4月刊行: TAC 出版 鳥の博物館の案内を掲載
- ・「BIRDER SPECIAL 羽毛恐竜完全ガイド」2023年3月刊行: 文一総合出版 ハシボソガラス全身骨格標本の写真を掲載 (二次利用)

【情報誌・ホームページ】

- ・「閑塾タイムズ」 「全国学び体験ガイド」: どりむ社学習塾が発行する月刊誌に館内展示・館外観の写真を提供
- ・「ふなばしよみうり」6面「催し」令和4年4月9日号 「日本の鳥収蔵標本公開」を写真付きで掲載。
- ・あいネット 就労準備支援通信「スクラム No.76」令和4年6月20日発行: 柏市地域生活支援センター 鳥の博物館の概要と展示のみどころを紹介。
- ・「元気半島、ちば!」 「千葉県美術館・博物館特集」令和4年8月18日更新: 千葉県庁ホームページ 鳥の博物館の案内を掲載
- ・千葉県観光素材集 2022 - 2023 年度版 (デジタルパンフレット) にて、鳥の博物館の案内を掲載

【テレビ番組への協力】

- ・「クイズあなたは小学5年生より賢いの?」 令和4年9月2日放送: 日本テレビ放送網株式会社 ニワトリ頭部の骨格標本写真の画像を提供
- ・「潜在能力テスト」「16 迷宮プラス」 令和4年5月17日放送: フジテレビ スズメの写真を提供
- ・「ひるまえほっと」「鳥のまち・我孫子の旅」 令和4年10月25日放送: NHK 総合テレビ 博物館の魅力や手賀沼で見られる鳥について紹介
- ・「お昼の快傑 TV」 令和4年7月17日放送: 千葉テレビ 2階の常設展示・3階の展示物の見どころを学芸員が紹介。

【新木近隣センターだよりへの寄稿】

- 2022年4月16日 第261号「我孫子に暮らすキジ」 小田谷学芸員
- 2022年5月21日 第262号「世界を旅する鳥ムナグロ」 望月学芸員
- 2022年6月19日 第263号「オーデュボンが描いたアメリカの鳥類」 村松学芸員
- 2022年7月17日 第264号「ペンギンのひみつ」 染

谷学芸員

- 2022年9月17日 第265号「絶滅危惧種のサシバを見ました」 岩本学芸員
- 2022年10月22日 第266号「手賀沼の鳥を調べる」 小田谷学芸員
- 2022年11月19日 第267号「鳥たちが食べているもの」 望月学芸員
- 2022年12月18日 第268号「骨からよみ解く空飛ぶしくみ」 村松学芸員
- 2023年1月21日 第269号「冬の田んぼに暮らす鳥たち」 岩本学芸員
- 2023年3月19日 第270号「小さな猛禽・モズの不思議な暮らし」 小田谷学芸員

2.6 職場体験受入

- ・我孫子市立白山中学校 2学年
- 実施日: 令和4年8月19日
- 受入人数: 3名

2.7 出前授業・講師派遣・アドバイザー・委員会など

- ・日本鳥学会目録編集委員会 (期間) 平成30年10月19日~令和5年 (内容) 日本鳥学会目録改訂第8版編集委員の委嘱。
- ・町はっけん (実施日) 令和4年12月1日 (内容) 我孫子市立高野山小学校2年生16人を対象とした生活科「町はっけん」での来館対応。
- ・ミニ手賀沼の水生動物調べ及び沈水植物植栽イベント (実施日) 令和4年7月17日 (土) (内容) 手賀沼水環境保全協議会および水生植物再生活用事業検討委員会が主催するイベントにオブザーバーとして参加。
- ・「親子の日」イベントへの協力 (実施日) 令和4年7月24日 (日) (内容) 工作「つばさのうちわをつくろう (137名)」とミュージアムショップの2つのブースを出した。
- ・水生植物再生活用事業検討委員会 (実施日) 令和5年2月8日 (内容) 手賀沼水環境保全協議会が主催する手賀沼の水生植物再生活用を目的とした事業検討委員会。
- ・国立科学博物館特別展「鳥展」 監修会議 (実施日) 令和4年10月4日 (火) (内容) 2024年開催予定の特別展「鳥展」について、展示構成を議論した。
- ・日本鳥学会選挙管理委員会 (期間) 令和4年12月10日から令和5年12月31日まで (内容) 日本鳥学会選挙管理委員の委嘱。
- ・令和4年度ふれあい文化講演会 (実施日) 令和5年2月26日 (主催) 新木地区まちづくり協議会 (内容) 「我孫子の空を渡る鳥たち」という演題で学芸員が講演した。

2.8 鳥に関する質問

入館者、電話、窓口、手紙などでの問合せ数・内容を把握するため、質問を受けた数を記録し集計した。

鳥の生態、傷病鳥の保護についてや、手賀沼の鳥のこと、写真の鳥の同定など鳥に関するさまざまな質問があった。

<令和4年度 質問件数>

月	件数
4月	23
5月	30
6月	35
7月	27
8月	34
9月	41
10月	29
11月	27
12月	24
1月	26
2月	24
3月	23
合計	343

情報を提供した。(令和4年4月26日)

千葉県生活環境部自然保護課へコブハクチョウの営巣場所の情報を提供した。(令和4年5月25日)

3 調査研究

調査研究活動

職員により、次の調査研究活動を行った。

- ◆手賀沼の鳥類生息状況調査：通年（小田谷学芸員・望月学芸員・村松学芸員・染谷学芸員）

手賀沼の鳥類の生息状況を把握する目的で、手賀沼の水域を対象に毎月1回のセンサス調査を実施した。結果速報は、鳥の博物館ニュース「あびこ鳥だより」およびウェブサイトに掲載。

- ◆手賀沼生物調査（小田谷学芸員、岩本学芸員、望月学芸員、村松学芸員、染谷学芸員）

手賀沼周辺に生息する鳥類の生息状況を把握する目的で調査を実施した。結果速報は、博物館内に掲示し「あびこ鳥だより」に掲載。

- ・手賀沼オオバン繁殖個体数調査、令和4年4月20日（水）9：00～12：00
- ・手賀沼オオヨシキリのソングポストのカウント調査（さえざり地点調査）、令和4年5月24日（火）9：00～12：00

3.1 調査研究活動への協力

鳥の博物館の調査研究に関連して、他組織の調査研究活動に対して次の協力を行った。

- ・他施設等への調査データの提供
我孫子市農政課にコブハクチョウの営巣場所の

4 資料の収集・保存

4.1 標本資料

鳥の博物館では、調査研究・教育普及活動に役立てるために、さまざまな方の協力のもとに各種鳥類の資料（おもに斃死鳥）を収集している。

収集した資料は、剥製標本や骨格標本として計画的に活用している。

令和4年度における標本の収蔵状況は次のとおりである。

収蔵標本総数（令和5年3月31日調べ）

種類	収蔵標本	常設展示標本
本剥製	2,014(2,001)	382(382)
仮剥製	447(380)	0(0)
部分剥製	34(34)	1(1)
全身骨格	478(476)	37(37)
部分骨格	148(45)	17(17)
化石	2(2)	0(0)
化石レプリカ	4(4)	7(7)
模型	33(33)	7(7)
巣	43(43)	12(12)
卵	67(67)	27(27)
卵レプリカ	19(19)	3(3)
羽毛	多数	51(51)
道具	1(1)	35(35)
小計	3,290(3,105)	579(579)
合計	3,869(3,684)	

注1. () 内は昨年度末の点数

4.2 図書資料

鳥の博物館で収蔵する図書資料は、次のとおりである。

蔵書数（令和5年3月31日調べ）

区分	収蔵冊数
国内書籍	4,241 (4,112)
国外書籍	511 (495)
国内雑誌	11,241 (11,014)
国外雑誌	1469 (1,467)
合計	22,289 (17,088)

※ () 内は昨年度末の冊数。

4.3 資料等貸出利用協力

(1) 資料の特別利用および貸出

鳥の博物館で収蔵する標本・資料および写真資料の貸し出し利用については、利用目的の合理性と保

守管理の適切さを判断し、館内での利用および館外への貸し出しを行っている。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、各種イベントが中止となり、館内利用および館外貸し出し件数は例年より減少した。

① 標本の館内特別利用 33件 253点

学術利用および友の会鳥絵同好会の事業での利用の参考とするための閲覧。

- ・学術利用 9件 29点
- ・鳥絵同好会利用 24件 224点

② 標本資料等の館外貸し出し

・特別展「アホウドリ—地球を旅する奇跡の鳥—」
領土主権展示館 アホウドリ模型（ぬいぐるみ）1点
令和4年7月26日（火）～令和4年9月25日（日）
・手賀沼流域フォーラム 子ども向けワークショップ
ダチョウ全身組立て骨格標本を学芸員が組み立てながら解説 令和4年8月4日
・第30回あびこ国際交流まつり アホウドリ模型（ぬいぐるみ）1点・鳥島全景を含む写真パネル 17点を展示 令和4年11月27日

③ 標本資料サンプルの提供

・冷凍標本の内臓資料より、消化管内寄生虫の調査を実施した。日本獣医生命科学大学獣医学部、冷凍資料約60個体 令和5年1月28日

(2) 備品貸出協力

博物館の運営目的に沿った公益活動に対して、備品の貸出を行った。

・双眼鏡の貸出

- 令和4年6月24日に20台
- 令和4年9月26日に33台
- 令和4年11月2日に30台及び三脚3台
- 令和5年1月25日に20台

合計4件貸出

・模型の貸出

山階鳥類研究所 山階鳥類学セミナー 捕獲技術入門編 かすみ網模型1点 令和5年3月14日

4.4 燻蒸

(1) 全館燻蒸

博物館の建物全体を対象とした燻蒸を、次の要領で行った。

- ・実施日：令和4年6月27日（月）
- ・使用薬剤：エコムアールFT ドライガス（ピレスロイド系炭酸ガス製剤）
- ・燻蒸時間：4時間
- ・薬剤注入方法：専用特殊ノズルで空中に噴霧
- ・効果判定：コクゾウムシ成虫を使用した効果判定を1階収蔵庫・2階展示室・3階展示室で行った結果、すべて100%の殺虫効果を確認。

(2) 標本食害虫生息状況調査

燻蒸効果を確認するため、標本食害虫の生息状況を定期的に調査した。毎月1回約1か月間のトラップ設置による食害昆虫の捕獲調査を実施した。

(3) 簡易燻蒸

簡易燻蒸は、企画展終了時や新作標本納品時、貸し出し標本返却時など、標本資料の収蔵庫からの出し入れに伴い、随時職員が実施した。

令和4年度は3回実施した。

注. 簡易燻蒸の方法：燻蒸室（床面積 7.18 m²）内で鳥の博物館仕様の「ふくろうくん（日本液炭）」（容量 5.4 m³の気密バッグ）を用い、炭酸ガスを注入し、濃度約 70%で2週間処理した。

5 総務ほか

5.1 組織

「我孫子市鳥の博物館」は、我孫子市教育委員会生涯学習部に属する機関である。令和4年度の鳥の博物館職員および組織構成は次のとおり。

(1) 職員名簿

職名	氏名
名誉館長*1	奥野 卓司（～令和4年6月） 小川 博（令和4年7月～）
館長	木下 登志子
係長	木村 亜由美
主任（学芸員）	小田谷 嘉弥
主任（学芸員）	岩本 二郎
主任主事	鈴木 ひなの
学芸員	望月 みずき
会計年度任用職員学芸員	村松 和行
会計年度任用職員学芸員	染谷 実紀
会計年度任用職員データ・資料整理員	1名
会計年度任用職員博物館受付・ショップ販売員	8名

注. *1 名誉館長は非常勤特別職

(2) 市民スタッフ

令和4年度の市民スタッフ登録者は21人であった。

5.2 予算の執行状況

予算の執行状況は次のとおり。

<令和4年度>

(1) 歳入

費目	決算額(千円)	備考
入館料	3,593	博物館入館料
博物館記念品 売捌収入	4,774	ミュージアム ショップ記念 品売上
雑入	17	観察会参加料
行政財産使用料	1	行政財産使用 料(郵便ポス ト)
鳥の博物館基金 寄付金	178	
計	8,562	

(2) 歳出

費目	決算額(千円)	備考
非常勤特別職 人件費	1,200	名誉館長報償費
会計年度任用職員 人件費	12,459	会計年度任用職 員人件費
博物館運営費	7,957	教育普及事業 開催等諸経費
ミュージアム ショップ運営費	2,917	ミュージアムショップ 用販売品購入 等
施設維持管理費	17,232	光熱水費、 消耗品費等
施設維持補修費	4,160	施設補修工事
基金寄附金	26,300	鳥の博物館基 金寄附金
負担金・補助金	1,184	賛助金 補助金
計	73,409	

※費目毎に千円未満切り上げ

提供する目的で、博物館が直営している。

ガイドブックや小物類など、当館独自に開発した品物等を常に100種類以上用意し、販売している。

令和4年度のおもな取扱商品一覧

ハンカチ類	ガーゼマフラー ガーゼタオル 鳥プリントハンカチ 鳥博ミニタオル
衣類	鳥博ポロシャツ(半袖) 鳥博Tシャツ 鳥博ブルゾン ネクタイ
書籍	ハシビロコウ絵柄ソックス 新山野の鳥(フィールドガイド) 新水辺の鳥(フィールドガイド) ハシビロコウのすべて 日本の渡り鳥観察ガイド フィールドガイド日本の野鳥 日本の野鳥630図鑑 声が聞こえる野鳥図鑑 海鳥ハンドブック 鳴き声から調べる野鳥図鑑 鳥の骨格標本図鑑 へんなものみつけ! 日本の渡り鳥観察ガイド 島の鳥類学 我孫子野鳥を守る会 手賀沼の鳥IV
食器類 装身具	オリジナル湯のみ 鳥のぬいぐるみストラップ 鳥バッジ 鳥博オリジナルマスク ピンブローチ キーホルダー ネックストラップ
鳥博出版物	企画展ガイド「つばさと飛行」 企画展ガイド「あしのはたらき」 企画展ガイド「餌とくちばし」 企画展ガイド「鳥の目のしくみとはたらき」 企画展図録「黒田長久 鳥絵の夢」 テーマ別ガイド「鳥の渡りの謎」 テーマ別ガイド「多様な鳥たち」 鳥の博物館見学ノート フィールドガイド「手賀沼の鳥」
文房具	鳥の博物館総合展示案内 鳥博クリアファイル オリジナル絵葉書各種 オオバンステッカー 絵葉書 オリジナルボールペン シールセット メモ帳 一筆せん

5.3 ミュージアムショップの運営

鳥の博物館のミュージアムショップは、来館記念になるものや博物館の教育普及活動に役立つものを

下敷き
野帳
ブックマーカー
ペンギンクリップ
フィギュア 鳥単品フィギュア
ペンギンボックス
食品 鳥博コーヒーセット
その他 鳥博エコバッグ
シジュウカラ用巣箱
オリジナルペーパークラフト
トランプ
お手玉
ぬいぐるみ
鳥のペーパークラフト
鳥博ボトルホルダー
鳴き声 CD
双眼鏡 パピリオ2
立体ブロックパズル PLUS PLUS
バードセイバー
木製の鳥笛 各種
3D 立体ペーパーパズル

5.4 入館者数

令和4年度の総入館者数は2,7405人であった。この数値は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためにイベントの中止や入館者数制限のあった令和3年度の25,638人からは増加した。これには、今年度は例年1,000人程の来館者を迎える5月のエンジョイ手賀沼が復活し、6,000人程の来館者を迎える11月のジャパンボードフェスティバルも、親水広場ではなく手賀沼公園での開催ではあったものの、再開したことが来館者数の増加につながったと考えられる。しかし、臨時休館する前の平成31年度の32,624人に比べると、まだ完全に回復はしていない。

なお、エンジョイ手賀沼(5月8日)、開館記念日(5月22日)、千葉県民の日(6月15日)、市政施行記念日(7月1日)およびジャパンボードフェスティバル(11月5日、6日)の各記念日は無料開放日とした。

令和4年度の入館者数

月	小・中学生	高・大学生	一般	無料・免除	館外学習	合計
4月	326	32	1,284	649	10	2,301
5月	915	56	1,387	1584	82	4,024
6月	432	27	900	714	11	2,284
7月	394	39	972	603	25	2,033
8月	657	100	1,464	787	22	3,030
9月	275	87	948	576	13	1,899
10月	395	56	955	637	8	2,051
11月	248	33	830	2367	11	3,489
12月	147	45	553	469	41	1,255
1月	163	30	789	446	19	1,447
2月	188	47	904	483	41	1,663
3月	269	50	915	301	33	1928
合計	4,409	602	11901	9616	316	2,7404
前年	4,406	528	12,391	8,203	110	25,638
比較	+3	+74	-490	+1413	+206	+1766

令和4年度の主要な無料・免除入館者数の内訳

月	学校行事	友の会会員
4月	0	60
5月	112	49
6月	326	57
7月	86	57
8月	0	79
9月	74	65
10月	200	106
11月	115	77
12月	36	125
1月	4	79
2月	0	109
3月	0	70
合計	953	933
前年	572	842
比較	+381	+91

6 条例・規則

○我孫子市鳥の博物館条例

平成元年9月28日条例第26号

(趣旨)

第1条 この条例は、博物館法(昭和26年法律第285号)第18条の規定により、博物館の設置及び管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 鳥類及び鳥類に関連する資料(以下「博物館資料」という。)の収集、保管及び展示をするとともに、その調査研究及び普及活動を通じて、市民の教養文化の向上に寄与することを目的とし、我孫子市鳥の博物館(以下「博物館」という。)を設置する。

(位置)

第3条 博物館は、我孫子市高野山234番地3に置く。

(事業)

第4条 博物館は、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 博物館資料を収集し、保管し、展示し、及び閲覧利用させること。
- (2) 博物館資料に関する調査研究及び博物館資料の保管、展示等に関する技術的研究をすること。
- (3) 博物館資料に関する研究会、講演会、講習会、映写会、観察会等の主催及び奨励をすること。
- (4) 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、調査研究書等の作成及び頒布をすること。
- (5) 博物館に関する情報及び参考資料の紹介及び提供をすること。
- (6) 他の博物館、学校、研究所、学会その他関係機関等と連絡及び協力をする事。
- (7) 前各号に掲げる事業のほか第2条に規定する目的を達成するために必要な事業(入館料の徴収等)

第5条 博物館に入館しようとする者(中学生以下の者を除く。)は、別表に定める入館料又は3館共通入館料を納めなければならない。ただし、我孫子市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が特に必要があると認めたときは、入館料を免除することができる。

- 2 既に納めた入館料及び3館共通入館料は還付しない。ただし、教育委員会が災害その他特別の事情により還付することを適当と認めたときは、この限りでない。
- 3 期間を定めて特別の博物館資料を展示する企画展の入館料は、教育委員会が別に定める。

(職員)

第6条 博物館に、館長、学芸員その他必要な職員を置く。

2 博物館に、名誉館長を置くことができる。

(委任)

第7条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が規則で定める。

附 則

この条例は、平成2年4月1日から施行する。ただし、第7条の規定は、平成元年10月1日から施行する。

附 則 (平成7年3月29日条例第9号)

(施行期日)

- 1 この条例は、平成7年4月1日から施行する。
(我孫子市特別職の職員で非常勤のものものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正)
- 2 我孫子市特別職の職員で非常勤のものものの報酬及び費用弁償に関する条例(昭和31年条例第16号)の一部を次のように改正する。
別表第1第4号の表中「鳥の博物館館長」を「鳥の博物館名誉館長」に改める。

附 則 (平成13年12月28日条例第35号抄)

(施行期日)

- 1 この条例は、平成14年7月1日から施行する。
(委員の任期に関する経過措置)
- 2 この条例の施行の日の前日において従前の(中略)鳥の博物館協議会の委員である者の任期は、当該委員の任期を定めたそれぞれの条例の規定にかかわらず、その日に満了する。

附 則 (平成26年3月26日条例第15号)

この条例は、平成26年4月26日から施行する。

附 則 (令和元年12月27日条例第25号)

この条例は、令和2年4月1日から施行する。

別表 (第5条関係)

区分	単位		金額	
入館料	一般	1人1回につき	個人	300円
			団体	240円
	高校生・大学生	1人1回につき	個人	200円
			団体	160円
3館共通入館料	一般	1人1回につき	個人	500円
	高校生・大学生		個人	400円

備考

- 1 高校生・大学生には、学校教育法(昭和22年法律第26号)に定める高等専門学校、専修学校、各種学校等に在学する者を含む。
- 2 団体とは、20人以上の者をいう。
- 3 3館共通入館料を納入した者は、当該入館料を納入した日から1ヶ月の間に、博物館のほか我孫子市白樺文学館及び我孫子市杉村楚人冠記念館にそれぞれ1回入館することができる。

○我孫子市鳥の博物館条例施行規則

平成元年9月29日(教)規則第6号

(趣旨)

第1条 我孫子市鳥の博物館条例(平成元年条例第26号。以下「条例」という。)第7条の規定により、条例の施行について必要な事項を定めるものとする。

(休館日)

第2条 我孫子市鳥の博物館(以下「博物館」という。)の休館日は、次に掲げるとおりとする。ただし、館長が必要があると認めるときは、臨時に開館日とすることができる。

(1) 月曜日(国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときはその翌日とし、当該翌日が休日に当たるときはその直後の休日に当たらない日)

(2) 1月1日から同月4日まで及び12月29日から同月31日まで

(3) 館内整理日及び館内燻蒸日

(4) 前各号に掲げる日のほか、館長が必要があると認める日

(開館時間)

第3条 博物館の開館時間は、午前9時30分から午後4時30分までとする。

2 前項の規定にかかわらず、館長が必要と認めるときは、開館時間を変更することができる。

(入館の制限)

第4条 次の各号の一に該当するときは、博物館への入館を拒否し、又は退館を命ずることができる。

(1) 公の秩序を乱し、又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。

(2) 施設、設備、展示品等を汚損し、又は他人の迷惑となる物品、動物等を携帯するとき。

(3) 保護者又は付添人のない6歳に満たない者。

(4) 前各号に掲げるもののほか、館長が管理運営上支障があると認めるとき。

(入館の手続)

第5条 博物館に入館しようとする者(中学生以下の者を除く。)は、条例第5条第1項に規定する入館料又は3館共通入館料を納入し、入場券の交付を受けなければならない。

(遵守事項)

第6条 博物館に入館した者は、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

(1) 所定の場所以外での飲食、喫煙、火気使用等の行為をしてはならない。

(2) 施設、展示品等を汚損し、又は損傷してはならない。

(3) 前各号に掲げるもののほか、管理上必要な指示に反する行為をしてはならない。

(入館料の免除)

第7条 条例第5条第1項ただし書の規定により、入館料を免除することのできる場合は、次のとおりとする。

(1) 70歳以上の者が入館するとき。

(2) 障害者基本法(昭和45年法律第84号)第2条第1号に規定する障害者が入館するとき。

(3) 前各号に定めるもののほか、教育委員会が公益上必要と認めるとき。

2 入館料の免除を受けようとする者は、前項第1号及び第2号に規定する場合を除き、あらかじめ入館料免除申請書(様式第1号)を提出し、入館料免除承認書(様式第2号)の交付を受けなければならない。

(資料の特別利用)

第8条 学術研究のため条例第2条に規定する博物館資料(以下「資料」という。)を特別に利用しようとするものは、資料特別利用申請書(様式第3号)を館長に提出し、資料特別利用許可証(様式第4号)の交付を受けなければならない。

(資料の館外貸出し)

第9条 他の博物館その他館長が適当と認めたものは、資料の館外貸出しを受けることができる。

2 資料の館外貸出しを受けようとするものは、資料館外貸出利用申請書(様式第5号)を館長に提出し、資料館外貸出利用許可証(様式第6号)の交付を受けなければならない。

3 資料の館外貸出期間は30日以内とする。ただし、館長が特に必要と認めるときはこれを延長することができる。

4 館長が必要と認めるときは、貸出期間中であっても資料の返還を求めることができる。

(損害賠償)

第10条 入館者並びに資料の特別利用を受けたもの及び資料の館外貸出しを受けたものは、自己の責めに帰すべき理由により、博物館の施設若しくは設備を損傷し、又は備品若しくは資料を亡失し、若しくは損傷したときには、これを修理し、又は損害を賠償しなければならない。

(資料の寄贈及び寄託)

第11条 博物館は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。

2 博物館に資料を寄贈しようとするものは、資料寄贈申請書(様式第7号)を館長に提出し、館長は博物館に資料を寄贈したものに対して、資料受領証(様式第8号)を交付するものとする。

3 博物館に資料を寄託しようとするものは、資料寄託申請書(様式第9号)を館長に提出し、館長は資料を寄託したものに対して、資料受託証(様式第10号)を交付するものとする。

4 博物館に寄託資料の返還を請求しようとするものは、寄託資料返還請求書(様式第11号)を館長に提出しなければならない。

5 寄贈資料には、寄贈者の氏名及び寄贈年月日を記して、永くその芳志を伝えるものとする。

6 寄託資料は、博物館所蔵の資料と同様の取り扱い

をするものとする。ただし、館外貸出しについては、寄託者の承認を得なければならない。

- 7 博物館は、不可抗力により寄託資料の損害に対し、その賠償の責を負わないものとする。

(その他)

第12条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理運営に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この規則は、平成2年4月1日から施行する。ただし、次項の規定は、平成元年10月1日から施行する。

(準備行為)

- 2 博物館の開館に関し必要な準備行為は、この規則の施行前においても行うことができる。

附 則 (平成2年9月28日(教)規則第9号)

この規則は、平成2年10月1日から施行する。

附 則 (平成3年5月1日(教)規則第2号)

(施行期日等)

- 1 この規則は、公布の日から施行し、改正後の我孫子市鳥の博物館条例施行規則は、平成3年4月1日から適用する。

(経過規定)

- 2 この規則の施行の前に行った入館料の免除に係る申請、決定、その他の行為は、改正後の規則の相当規定によってなされたものとみなす。

附 則 (平成4年3月31日(教)規則第5号)

(施行期日)

- 1 この規則は、平成4年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 この規則の施行の際、この規則による改正前の次の各号に掲げる規則の規定に基づき作成された様式の用紙で、現に残存するものは、必要な調整をした上、なお当分の間、使用することができる。

(1)～(5) 省略

(6) 我孫子市鳥の博物館条例施行規則

附 則 (平成12年12月27日(教)規則第6号)

この規則は、公布の日から施行する。(後略)

附 則 (平成14年5月30日(教)規則第17号抄)

(施行期日)

- 1 この規則は、平成14年7月1日から施行する。

附 則 (平成15年1月31日(教)規則第1号抄)

(施行期日)

- 1 この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則 (平成26年3月31日(教)規則第3号)

この規則は、平成26年4月26日から施行する。

附 則 (平成28年12月26日(教)規則第13号)

この規則は、平成29年1月1日から施行する。

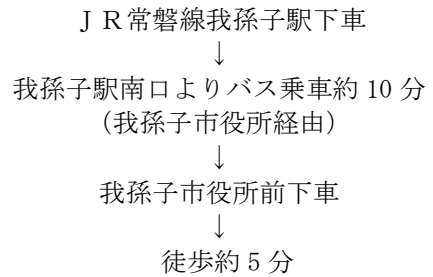
様式第1～11号(省略)

7 博物館入館案内

●開館時間

- ・午前9時30分から午後4時30分

●交通



●休館日

- ・月曜日 (祝日の場合は次の平日)
- ・年末年始 (12月29日～1月4日)

●入館料

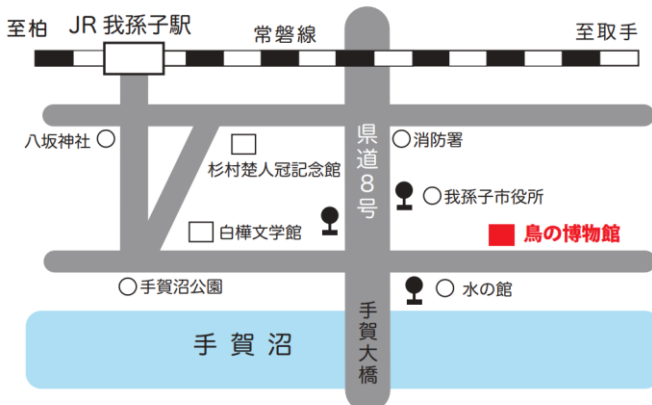
区分	個人	団体 (20人以上の場合) 1人につき
一般	300円	240円
高校生・大学生	200円	160円

注. 企画展に限り特別料金をいただく場合があります。また、下記の入館者については入館料を免除します。

- ① 乳幼児、小・中学生、70歳以上の方
- ② 障害者基本法第2条に規定する心身障害者
- ③ 教育委員会が公益上必要と認めるとき

障害者の方お一人につき介護者或いは引率者お一人も入館料無料となります (手帳をご提示ください。障がい者手帳アプリ「ミライロ ID」のご提示でも減免が適用されます)

●案内図



我孫子市鳥の博物館報

第33号 (令和4年度版)
令和5年10月発行

編集・発行 我孫子市鳥の博物館

〒270-1145 千葉県我孫子市高野山 234-3

TEL. 04-7185-2212

FAX. 04-7185-0639

<https://www.city.abiko.chiba.jp/bird-mus/>